



平成29年7月1日(土)

# 藤 棚

第339号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>  
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

## 地球温暖化と縄文海進

校長 小川義男

日本列島は、新潟県の辺りでぼきっと折れている。フォッサマグナと言われているものである。マグマの移動のためと言われるが、どうも私には納得できない。巨大な流星が北から飛んできて、列島をへしませたような気がしてならないのである。多分、私が間違っているのであろう。諸君の中に、地質学者として大成する人が出たら、教えて欲しい。

大量に翡翠が出土するのは、我が国では、この列島が折れ曲がっているフォッサマグナ、つまり新潟県糸魚川のあたりだけである。

「なんでも鑑定団」で、どなたかが、糸魚川の辺りを歩いていて、半透明な綺麗な石を拾ったと言って鑑定に出した。長さ12センチくらいだったであろうか。本物の翡翠で、値は千万円くらいとの事であった。70キロほど南下した、信濃大町に私の山小屋があり、近いので、時折糸魚川を訪れるが、翡翠を見つけたことはない。

青森県の三内丸山は、ほぼ五千年前の遺跡だが、ここでは、栗を栽培していたらしい。栗の花粉オパールが大量に発見されるので、植林の跡と判断されているのである。

ハマグリ貝の貝塚もあるが、貝殻の大きさが同じなので、これは、煮貝として、商品化されていたのではないかと判断されている。

驚くのは、この遺跡から、翡翠が発見されることである。青森で翡翠が取れる筈はない。これは、糸魚川の辺りから持ちこまれた物なのであろう。

五千年前、エジプト第一王朝の時代だ。既に縄文人は、糸魚川まで航海する技術を身につけていたと言う事なのである。

今日、言いたいのは、その事ではない。どうして、あのように内陸深くにある三内丸山で、ハマグリが取れ、貝塚が存在するのかである。

実は、今でこそ内陸深くにある三内丸山だが、五千年前には、海辺にあったのである。これが「縄文海進」と言われているものである。昔、三内丸山は海岸であった。つまり、当時の海の高さは、今に比べて遙かに高かったのである。

海が今より陸に迫っていたということは、両極や高山の氷山、氷河が溶けていたと言う事である。つまり地球は温暖化していたのである。

今日、温暖化の原因は、産業革命以来の二酸化炭素量増大による温室化現象の結果とされている。では、縄文時代の温暖化は、何がもたらしたものであろうか。

若しかするとそれは、太陽黒点の増減その他、宇宙的次元の問題であったのかも知れない。いずれにせよ、温室化現象が生まれる前に存在していた地球温暖化の問題を語らずに、すべてを温室化現象に帰責するのは少し早いのかも知れない。

石原慎太郎を特に好きな訳ではないが、彼は、炭素排出量に厳しい政策をとって東京の空を綺麗にした。今日、彼の功績の一切が否定されがちであるが、空気浄化のための彼の努力と功績を忘れてはなるまい。

それにしても、二酸化炭素以外の地球気温に寄せる様々な原因について、全く問題にされていないのはどうしてなのであろうか。

マクロには、われわれの住む地球は、氷河期に向かっているとも言われる。これはどうも、学術的には確実とされているものであるらしい。

私は、少年時代から、酸素が不足するということを心配していた。石油タンクの火災とか、山火事などの報道に接して、酸素がなくなってしまうのではないかという事を心配したのである。

温暖化だけでなく、大気の健全性を保つためにも、二酸化炭素の排出削減には、もっともっと留意しなくてはならぬ。二酸化炭素の大量排出国アメリカには、一層の政策的協力を望みたいところである。

大国中国は、「一带一路」などと、世界支配を目指しているのではないかという心配さえしたくなるほど、国威発揚に余念がないが、それより、自国首都並びに大都会での PM2.5 等の大気汚染の心配を、何とかして貰いたいものである。我が国博多の辺りまで、汚染の迷惑は及んでいるのだから、「習近平さん、よろしく頼むよ」と言いたいところである。

それにしても、五千年前の時代に栗の植樹をしたり、ハマグリを煮貝を作って商品化していたとは凄い。それを新潟の糸魚川まで持って行き、交易していたらしいのだから、先人の偉大さには驚く。日本の先輩達が、どれほど偉大であったかを忘れてはなるまい。

二酸化炭素排出の抑制と並んで配慮しなくてはならないのは、森林の増大である。アマゾン流域の森林は、かつて知られていたより、遙かに広大であることが最近分かったそうである。本当に喜ばしいことだ。

もともと地球に酸素はなかった。炭酸ガスを吸収して、陽光の力でデンプンを作り出す、炭酸同化作用の中で、酸素は生み出された。山中を訪れ、森の中に入ると、心が休まるのは、もともと我々が緑の中で暮らしていた為であるが、酸素の豊かな山中で、呼吸が一層快適になる為でもあるのかも知れない。

だから、緑を増やすことは決定的に重要だ。アマゾンばかりでなく、すべての国と地域で、緑を増大させることに留意しなくてはならぬ。砂漠の緑化は、成功すれば、世界全体を好ましい方向に変えていくかも知れない。

諸君は若い。その能力的可能性も無限である。研究、努力に期待する。

法隆寺で扉が壊れた。千年経ったその支柱が転がっていたので、大工が、悪戯して鉋をかけた。数回削るとぷうんと、檜の香りがしたと言う。大工は、檜の生命力に、神秘さを感じたという。

私に夢がある。学園のため、土地を手に入れて、そこを檜林にしたい。檜の育成には二百年かかる。檜林と学園、そのふたつを二百年守り育てて行って欲しい。その材木で、茶室を造ってもらえたらなあ。